



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月11日

上場会社名 株式会社木曽路 上場取引所 東 名
コード番号 8160 URL <https://www.kisoji.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中川 晃成
問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 奥野 慎太郎 TEL 052-872-1811
半期報告書提出予定日 2025年11月12日 配当支払開始予定日 2025年11月28日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	24,392	2.2	△93	—	△79	—	△61	—
2025年3月期中間期	23,856	△0.0	△694	—	△675	—	△886	—

(注) 包括利益 2026年3月期中間期 173百万円 (—%) 2025年3月期中間期 △932百万円 (—%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	△2.19	—
2025年3月期中間期	△31.49	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	45,788	29,584	64.6
2025年3月期	46,781	30,341	64.9

(参考) 自己資本 2026年3月期中間期 29,584百万円 2025年3月期 30,341百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	12.00	—	33.00	45.00
2026年3月期	—	15.00	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	54,000	1.4	3,000	10.8	3,030	10.0	2,040	△35.6	72.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2026年3月期中間期	28,543,889株	2025年3月期	28,543,889株
2026年3月期中間期	383,925株	2025年3月期	383,649株
2026年3月期中間期	28,160,317株	2025年3月期中間期	28,160,584株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、〔添付資料〕3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間 (2025年4月1日～2025年9月30日) におけるわが国経済は、企業収益、雇用や所得環境の改善などを背景に緩やかな回復基調が続いております。一方で、地政学リスクの高まりや米国政権の政策運営に伴う不確実性、為替・金利の変動など、依然として先行きには不透明感が残る状況となっております。

外食産業におきましては、人流の回復や賃上げ効果などを背景に個人消費が増加し、全体として回復基調が継続しております。しかしながら、米をはじめとする原材料価格やエネルギー価格の高騰、人件費の上昇など、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社グループは、主力業態であるしゃぶしゃぶ・日本料理の「木曾路」部門において、季節ごとのイベント (北海道フェア等) やゴールデンウィーク、母の日・父の日などお客様のご利用目的にあわせて、心温まるひとときをお過ごしいただける場とおもてなしを提供してまいりました。また、業態の強みである「ハレの日」需要にお応えするため、店舗において「お食い初め」「一升餅」などの慶事利用に対し、社内マイスターによる上質なおもてなしの提供に引き続き努めてまいりました。

さらに、お客様ニーズに応える新たな商品として、昨年より導入したお値打ちなお昼の定食 (籠盛り定食) の拡充、コア商品である「しゃぶしゃぶ」においてはお肉の量を選べるコースメニューを設定し、サイドメニュー (有機栽培コーヒー、季節のごはん、デザート等) の充実によって推奨力を高め、来店客数および売上高の増加に努めてまいりました。

一方、第2の事業の柱として焼肉部門の強化を図るべく、アプリを活用したメニュー提案やイベント情報の発信、木曾路部門で培った顧客管理手法の活用などにより、営業力の向上に取り組みました。

費用面におきましては、購買・調達の見直しを推進し、在庫およびロス管理の徹底による原価低減を図るとともに、客数予測に基づいたシフト管理の徹底により人件費を適正にコントロールいたしました。さらに、高騰する光熱費については使用量削減の取り組みを進め、消耗品等の経費見直しを徹底するなど、経費圧縮に努めてまいりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は、243億92百万円 (前年同期比 2.2%増加)、営業損益は93百万円の損失 (前年同期実績 6億94百万円の損失)、経常損益は79百万円の損失 (同 6億75百万円の損失)、親会社株主に帰属する中間純損益は61百万円の損失 (同 8億86百万円の損失) となりました。

なお、働き方改革の一環として株式会社木曾路において、5月7日、8日、8月18日の3日間、全店一斉休業を実施しました。今後も働き易い魅力ある企業づくりにも努めてまいります。

(2) 当中間期の財政状態の概況

資産、負債及び純資産の状況

	前連結会計年度 (2025年3月31日現在)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日現在)	増 減
総資産 (百万円)	46,781	45,788	△993
純資産 (百万円)	30,341	29,584	△756
自己資本比率 (%)	64.9	64.6	—
1株当たり純資産 (円)	1,077.45	1,050.58	△26.87

当中間連結会計期間末の総資産は45億788百万円 (前連結会計年度末比 9億93百万円の減少) となりました。この主な内訳は、流動資産が180億12百万円、有形固定資産が168億7百万円、無形固定資産が18億43百万円、投資その他の資産が91億23百万円であります。前連結会計年度末からの主な減少要因は、流動資産が14億90百万円の減少となったことによるものであります。

一方、負債合計は162億3百万円 (同 2億36百万円の減少) となりました。この主な内訳は、流動負債が130億67百万円、固定負債が31億35百万円であります。前連結会計年度末からの主な減少要因は、未払法人税等が1億94百万円の減少となったことによるものです。また、当中間連結会計期間末における純資産合計は29億584百万円 (同 7億56百万円の減少) となりました。この主な内訳は資本金が126億48百万円、資本剰余金が124億67百万円、利益剰余金が45億38百万円であります。前連結会計年度末からの主な減少要因は、利益剰余金が9億90百万円の減少となったことによるものであります。

以上の結果、当中間連結会計期間末の自己資本比率は64.6% (前連結会計年度末は64.9%)、1株当たり純資産額は1,050.58円 (同 1,077.45円) となりました。

(部門別売上高)

部門	事業内容	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)	前年同期比 増減率
木曾路 部門	しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曾路」	18,463百万円	19,002百万円	2.9%
焼肉部門	特選和牛の「大將軍」 国産牛焼肉の「くいどん」	3,969	3,933	△0.9%
その他 部門	居酒屋	566	598	5.5%
	和食 旬彩処の「鈴のれん」	317	341	7.3%
	その他	711	703	△1.1%
調整額		△173	△185	—
合 計		23,856	24,392	2.2%

(注) 部門別売上高は連結取引高の相殺消去前の数値であります。

木曾路部門

しゃぶしゃぶ・日本料理「木曾路」業態は、8店舗の改装を行い、当中間連結会計期間末店舗数は126店舗であります。営業面では、好評を博している季節イベントの開催に加え、お値打ちなお昼の定食（籠盛り定食）の提供や、コア商品である「しゃぶしゃぶ」においてお肉の量を選べるコースメニューを設定するなど個人需要の獲得、また、飲み放題付宴会メニューや送迎バスをご用意し企業宴会の獲得にも努めてまいりました。さらに、有機栽培コーヒーや季節のごはん、デザートなどのサイドメニューを充実させることにより、来店客数および客単価の増加に引き続き取り組んでおります。

また、お食い初めや一升餅といったお子様のお祝い、新入学・就職、結婚、長寿などの慶事・祝事に対し、最適なおもてなしと料理を提供することで、お客様の多様な利用目的にお応えしてまいりました。

その結果、売上高は190億2百万円（前年同期比 2.9%増加）となりました。

焼肉部門

特選和牛「大將軍」及び国産牛焼肉「くいどん」業態におきましては、1店舗の新規出店を行い、当中間連結会計期間末店舗数は48店舗となりました。営業面では、アプリ会員を対象に季節ごとのフェアやご家族向けイベントを実施し、来店客数の増加に努めました。また、毎月29（にく）の日には、お値打ちな商品を提供することでお客様の満足度向上を図りました。

業態別では、「大將軍」業態が堅調に推移した一方、「くいどん」業態は苦戦し、売上高は39億33百万円（同 0.9%減少）となりました。

その他の部門

居酒屋（「とりかく」、「大穴」）業態は、1店舗の出店を行い、当中間連結会計期間末店舗数は9店舗となりました。宴会需要の回復や客単価が増加したこと等により、売上高は5億98百万円（同 5.5%増加）となりました。

和食 旬彩処「鈴のれん」業態は、2店舗の改装を行い、当中間連結会計期間末店舗数は5店舗であります。屋号を和食・しゃぶしゃぶ「鈴のれん」より和食 旬彩処「鈴のれん」に変更しお値打ちな本格和食を提供してまいりました結果、売上高は3億41百万円（同 7.3%増加）となりました。

その他業態は、食肉加工卸売、からあげ専門店「からしげ」、物販（しぐれ煮、胡麻だれ類）及び不動産賃貸等があります。売上高は7億3百万円（同 1.1%減少）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

先の「2026年3月期第2四半期（中間期）連結業績予想の修正に関するお知らせ」（2025年10月30日公表）の通り、中間期の連結業績予想の修正を行いましたが、通期については2025年5月9日の公表値から変更はございません。今後の動向により業績予想の修正が必要となった場合は、速やかに開示いたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,389	12,414
売掛金	2,023	1,548
有価証券	—	100
商品及び製品	4	23
原材料及び貯蔵品	3,564	3,299
その他	520	627
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	19,503	18,012
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	7,964	8,413
土地	6,096	6,027
その他 (純額)	2,190	2,366
有形固定資産合計	16,250	16,807
無形固定資産		
のれん	1,114	1,043
その他	887	800
無形固定資産合計	2,001	1,843
投資その他の資産		
差入保証金	4,014	3,988
その他	5,043	5,166
貸倒引当金	△30	△30
投資その他の資産合計	9,026	9,123
固定資産合計	27,278	27,775
資産合計	46,781	45,788

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,132	1,263
短期借入金	7,000	7,000
1年内返済予定の長期借入金	293	231
未払法人税等	467	273
資産除去債務	0	0
賞与引当金	625	765
その他	3,693	3,534
流動負債合計	13,212	13,067
固定負債		
長期借入金	185	101
退職給付に係る負債	1,256	1,285
資産除去債務	1,319	1,334
その他	466	414
固定負債合計	3,227	3,135
負債合計	16,440	16,203
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,648	12,648
資本剰余金	12,467	12,467
利益剰余金	5,529	4,538
自己株式	△935	△936
株主資本合計	29,709	28,717
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	621	857
退職給付に係る調整累計額	9	8
その他の包括利益累計額合計	631	866
純資産合計	30,341	29,584
負債純資産合計	46,781	45,788

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	23,856	24,392
売上原価	7,730	7,743
売上総利益	16,125	16,649
販売費及び一般管理費	16,820	16,743
営業損失(△)	△694	△93
営業外収益		
受取利息	12	10
受取配当金	22	32
その他	12	15
営業外収益合計	47	57
営業外費用		
支払利息	15	29
賃貸借契約解約損	2	0
その他	9	13
営業外費用合計	27	43
経常損失(△)	△675	△79
特別利益		
固定資産売却益	0	174
特別利益合計	0	174
特別損失		
固定資産除売却損	96	64
特別損失合計	96	64
税金等調整前中間純利益又は 税金等調整前中間純損失(△)	△771	30
法人税、住民税及び事業税	71	88
法人税等調整額	43	2
法人税等合計	115	91
中間純損失(△)	△886	△61
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△886	△61

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純損失 (△)	△886	△61
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△46	235
退職給付に係る調整額	0	△1
その他の包括利益合計	△45	234
中間包括利益	△932	173
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△932	173
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は 税金等調整前中間純損失 (△)	△771	30
減価償却費	734	723
のれん償却額	71	71
賞与引当金の増減額 (△は減少)	117	140
退職給付に係る資産及び負債の増減額	6	24
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	0	0
受取利息及び受取配当金	△34	△42
支払利息	15	29
賃貸借契約解約損	2	0
固定資産除売却損益 (△は益)	96	△109
売上債権の増減額 (△は増加)	357	475
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△362	246
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△57	△88
仕入債務の増減額 (△は減少)	△229	131
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△1,324	△274
長期未払金の増減額 (△は減少)	△4	—
その他	△0	△10
小計	△1,383	1,347
利息及び配当金の受取額	36	42
利息の支払額	△15	△29
賃貸借契約解約による支払額	△16	—
法人税等の支払額	△540	△288
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,919	1,070
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,095	△1,098
有形固定資産の売却による収入	—	243
無形固定資産の取得による支出	△107	△43
差入保証金の差入による支出	△14	△26
差入保証金の回収による収入	69	54
資産除去債務の履行による支出	△11	△0
その他	△4	△46
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,164	△917
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	3,000	7,000
短期借入金の返済による支出	—	△7,000
長期借入金の返済による支出	△3,146	△146
リース債務の返済による支出	△93	△52
配当金の支払額	△281	△929
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△522	△1,128
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,605	△975
現金及び現金同等物の期首残高	14,591	13,389
現金及び現金同等物の中間期末残高	10,985	12,414

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

当社グループは、料理・飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食店のほか付随的に外販・不動産賃貸等を営んでおりますが、飲食店としての事業がほとんどを占めており実質的に単一セグメントのため、記載を省略しております。

II 当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

当社グループは、料理・飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食店のほか付随的に外販・不動産賃貸等を営んでおりますが、飲食店としての事業がほとんどを占めており実質的に単一セグメントのため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。